

### 第3回 荒川区新庁舎整備基本構想・基本計画策定委員会 議事録

- ・ 日時 令和8年1月16日(木) 10:00~12:00
- ・ 会場 本庁舎5階大会議室
- ・ 出席委員 18名(欠席者なし)

(敬称略)

区分	氏名	役職名等	備考
学識経験者 有識者	坂田 一郎	東京大学 総長特別参与 工学系研究科 教授	委員長
	加藤 孝明	東京大学生産技術研究所 教授	
	高橋 邦夫	合同会社 KU コンサルティング 代表社員	
	橋本 美芽	東京都立大学大学院 人間健康科学研究科 准教授	副委員長
	山崎 誠子	日本大学短期大学部建築・生活デザイン 学科 准教授	
区議会議員	斎藤 泰紀	自由民主党 荒川区議会議員団	
	並木 一元	自由民主党 荒川区議会議員団	
	菊地 秀信	公明党 荒川区議会議員団	
	花澤 昭信	ゆいの会(都民ファースト・国民民主・ あたらしい党・無所属)	
	横山 幸次	日本共産党 荒川区議会議員団	
区民	鳥飼 秀夫	荒川区町会連合会会長	
	富永 新三郎	東京商工会議所荒川支部会長	
	今井 健一郎	公募委員	
	近藤 裕次	公募委員	
	佐々木 かおり	公募委員	
	竹澤 美壽保	公募委員	
	西 柊作	公募委員	
区職員	小林 直彦	副区長	

- ・ 傍聴者 3名

## 1. 開会

## 2. 委員長あいさつ

## 3. 議事 <基本理念・基本指針・整備方針の検討Ⅱ>

基本理念・基本指針の検討

### (事務局説明)

資料1 第3回資料【議題の概要】

資料2 第3回資料のうち

- 1 全体の検討スケジュールについて
- 2 基本理念・基本指針の検討

資料3 バリアフリー・ユニバーサルデザイン・アクセシビリティの定義

### 委員長

それではご意見がある方お願いします。

### 委員

先ほど事務局から説明があったところで気になっているのは、災害対策の安全・安心という部分について、水害に強いというのが二度も出てきていましたが、水害だけではないと思います。

さらに大変なのは、区部で直下の巨大地震がいつ起こるか分からないということ。それも震度6強以上というのは十数年前から、政府と地方防災会議で言われているわけで、水害だけではありません。行政がそういう感覚でおられては困りますということだけは申し上げておきます。

### 事務局

前回委員会では、水害対策が強調されて議論となっていましたので、水害の部分を中心に説明させていただきましたが、委員がおっしゃる通り、震災対策はおそらくここにいらっしゃる委員の皆様も、震災対策も必要という前提の中で、前回委員会では水害に特化してお話いただいたのかなと思っております。

私どもとしても、当然地震にも水害にも、あとは火災も含めて、様々な災害に対応できる庁舎を作っていかなければならないというところは、認識しております。

特に昨今は、水害が非常にひどくなってきているところもありますので、委員の皆様はそちらのほうのご意見を強調されたのではないかというふうに考えております。従いまして、震災対策をないがしろにするつもりは全くございませんし、十分

な対策が必要と認識しています。

### 委員長

ありがとうございました。本日は整備方針も検討していきますが、安全・安心の中身を考える上で、安全・安心という言葉だけだと具体的な機能が曖昧になってしまいますので、十分な検討が必要だと思います。

### 委員

少し補足させていただきますが、やはり水害対策というのは、私も長い間、荒川の水害対策を堤防整備など主張してきまして、かなり進んできております。一時、町屋駅辺りが水没するような被害が出ると言われてきましたが、だいぶ危険性が減ってきたように思います。

水害というのは、整備状況等で防げるようになるもので、特に今は足立区あたりの方が危ないということで、荒川区においては、水害対策について東京都の協力、あるいは国交省の協力を受けて、整備がされていくとだいぶ良くなると思います。

ところが、地震に関してはどの程度のものが起きるかわからない。どこで起きるかわからないということで、私も今お話聞いてその通りだと思いましたので、その辺は徹底していただければと思います。

### 委員

今回、非常に大事な議論に私も参加させていただきまして、いろんなことを考えるきっかけになったと思っております。今後、整備方針等の議論に進んでいきますが、その際にシンボルだとか荒川の魅力を高めるとか、街のシンボルとなると、「シンボル」という言葉についてよく考えなくちゃいけないなと思っています。どうしてもシンボルだとか、その魅力ってなりますと、意匠的なもの、形とかデザインとかに走りがち傾向もあるのかなと思います。

実は他区の設計の契約手続きで3度不調になっています。建築まで行かずに設計見直しになってしまった。前回、維持管理のところでも申し上げましたが、機能美と言いますか、現代にふさわしいものにすると、魅力・シンボリックなものがなくてはならないみたいなことにならないような表現を考えた方がいいのではと思っています。

しかも百年以上使うという観点に立つと、今流行っていても百年後どうなるかわからない。服でいうと、昔のデザインのものが地味だけでも、ずっと使われてくる、いつまでも古びない。こういうものがわかるようにしていく必要があって、表現なんかも考えるのがよいと思います。荒川の魅力を発信したいとか、シンボルと

つけるというのは、気持ちとしてわかるのですが、我々の世代だけ使うものじゃなくて将来を考えていく必要がある。そうすると最後はやはりコストの問題も出てくるので、次の世代に残せるものっていうのを念頭に入れた指針、整備方針にしていく必要があるのかなと思います。

全国の事例はありますので、ぜひ会議の中で議論できればと考えております。

## 委員

前回の委員会でも文京区の建物がゴジラと呼ばれていて、そういうシンボリックな建物がやはり必要なんじゃないかという話があったと思うんですね。また、荒川区に来た時に、建物の形状が今でもインパクトがある、好感の持てるような形状になっているというお話もありました。

シンボルという部分では、やはりビジュアルという印象を感じる。

先ほどもありましたが、他区で設計が3回ぐらいダメになったというのもあると思うのですが、設計をしていただく設計会社さんはもう決まっているのか、また、その部分はどうやって決めていくのかという、プロセスについて教えていただけるとありがたいです。

## 事務局

まず、本委員会の皆様にご意見等をいただき、基本構想、基本計画を策定してまいります。この段階においては、設計業者は決まっておりません。

次に基本設計というものに移行する際に、設計業者の選定をいたしますので、その基本設計と実施設計の中で設計業者が決まり、その決まった業者が図面を書き、それに対して意見を交わしながら作っていくという流れでございます。

したがって、事業者が決まるのはまだ先になりますが、その前段となる基本構想、基本計画を皆様に決めていただく段階にあるという状況です。

具体的には、令和9年から基本設計を行っていく予定ですので、来年度の1年間をかけて、基本計画の部分を検討し、どのような庁舎を作っていくかというところをご議論していただくこととなります。

## 委員

そういったシンボリックな形が、機能性も含めて設計されることを期待していますので、よろしく申し上げます。

## 委員

シンボルというところで感じたのが、有名な設計者に頼ることは必要ないと思い

ます。なぜかという、どこに行ってもみんな同じ景色になってしまう。やはり荒川独自っていうところを考えたときに、有名な設計者に頼ることは全くないと思いますし、場合によっては公募などでもいいのかもしれないと思っています。

大事なものは地震だったりとか、水害であったりとか、災害から守るというのはベーシックに考えた上で、その良さ、昔の街並みとか、すごくいいところがたくさんあると思うので、荒川独自のものを取り入れた庁舎にしていくといいと思いました。

## 委員

基本的に役所関係の作る建物では、区単独でのお金だけでなく、場合によっては国や東京都からの助成金とか、そういったものも勘案していくと、当然、民間と違って贅沢な建物というわけにはいかないと思います。

最低限必要な、区の人口動態とか、例えば最大 25 万人ぐらいをベースにして、その人たちが生活するために利用する区の窓口業務としてはなどと考えると、色々と制約とか大きさとかも決まってくるのではないかと思います。その時に基本的な器っていうのはあると思います。

私が少し気になっているのが、食堂についてです。以前、渋谷区役所の新庁舎に行ったら食堂はもうないと聞きました。多分、渋谷区庁舎の周りは、食事ができる飲食店が十分に備わっているの、あえて庁舎の中に作るよりも、そういったところで機能する。だからコンビニ程度の必要最低限があればいいということで、勘違いしていたら申し訳ないのですが、食堂がないんじゃないかなと思います。ですが、荒川区を見ると、この周りを見ても繁華街と違うところに建っているの、食事する場所が非常に少ないと思うんです。職員の方も、昼ご飯になると、自分で弁当持ってきたりパン屋さんが来たりとかいろいろあると思うんですが、レストランはあったほうが良いのではないかと思います。

もう一つは、必要なものを小さく集めて、福祉関係はこのぐらい、あるいは教育関係はこのぐらいと積み上げた結果として器っていうのが出てくるんじゃないかなと思います。その器の中でも、例えば墨田区役所のようにタワー的なものと、足立区役所のような高層ではないけど広がりのあるものという風になった時に、荒川区の場合は、本委員会での意見を聞いていると、公園の中にできる庁舎でもある。裏の方は 25m 道路が広がりますから、タワー的なもので容積率や建蔽率を考えて公園部分を広くした方がいいという意見もあるし、一方で、あまり高い建物だと区民の利用が登り降りの関係で色々な議論が出ると思いますし、私がこうした方がいいというんじゃないけど、いろいろなところがあると考えています。

最後になりますけど、銀座っていうと必ずあの和光の建物が出てくる。銀座って

いうと和光が思い浮かぶ。和光の建物は決して新しい建物ではないが、重厚な作りになっている。ですから、建物のデザインとか、そういったものはやはり十分に検討していく必要があると思います。

## 委員

11 ページの基本理念、基本指針の検討の中で執務環境というのがあります。指針案の縦の欄をみると、住民サービスと執務環境の間に境目の線がないんですね。

住民サービスと執務環境は、私は全く違うと思います。転職サイトの説明会とか見ましたら、墨田区とか北区とか、区の名前が載っているんです。ということは、やはり深刻な公務員不足っていうことがあるかもしれません。もちろん建物がよくなれば来る人間は喜ぶと思いますが、執務環境が理由で出ていってしまうかもしれません。そういった意味では特別だと思うんです。ここにはやはり線を引いていただいて、執務環境は、職員の方の意見でないといけないわけですから、区側からはなかなか言いにくいかもしれませんが、私は大事にさせていただきたいと思います。

それらを見据えて、目立って派手にしたり豪華にすることは全くないのですが、職員の働きやすきなども、うまく華美にならないようにやる必要があるのではないかと思います。

## 委員長

ありがとうございます。前回の委員会では、執務環境という部分について多数のご指摘がありましたので、今回より、指針3のところに、「働きやすい」という言葉を入れてあります。

## 委員

令和9年から基本設計ということなんですけれども、その際にこの理念と指針というものが各設計会社にも、コンペなのか業務委託なのかわかりませんが、参加された会社に対してこういう庁舎を作りたいんだということで、オリエンテーションされるものだという認識で間違いはないですか。

## 事務局

お見込みのとおりです。基本理念、基本指針、整備方針は設計事業者等に提示いたします。

## 委員

過去2回の議論の中で、私もいろいろと言わせていただきましたが、出てきた意

見に関して、今回ご提示いただいている基本構想は、よくまとめていただいているのかなというふうに私は評価しております。

もちろん、最終的なアウトプットの表現として、例えば「荒川の魅力」がいいのか、もっとふわっとした「力」とか「夢」とか「希望」とか他の言葉がいいのかみたいなことは、最終的にもう少し直す必要があるかとは思っていますが、とりあえずこの形で、あとはまとめていく方向でよろしいのではないかと考えております。

先ほどシンボルの話がありましたが、その時代のモードっていうんですか、意匠やデザインみたいなものは、どのようなオリエンテーションをしようが必ず最終的には出てきてしまうものだと思います。ですから、話題性や一時的なそのインパクトを与えるようなものではないという前提で、オリエンテーションをされていけばよろしいのかなと思います。

その中で、例えば「あらかわ」っていうのは、鍵括弧がふられていて、わざわざひらがなにされている。この意図みたいなのところに、多分オリエンテーションされる時の方向性が含まれてくるんじゃないのかなというふうにも思うので、ひらがな表記にされた「あらかわ」の意味合いというのを、後ほど事務局の方にもご説明いただければと思います。

前回の委員会の中で非常に印象に残ったのが、小学生か中学生の時、なにかの表彰で区役所に行ったことが晴れがましい記憶として残っているというお話が委員の中からありました。私はあの発言、すごく印象に残っています。ここは大人しかいないわけですが、未成年にとっての庁舎という視点が、議論の中で一切抜けていたと感じました。

荒川区の未来を担っているのは子どもたちなので、その未来を担う子どもたちにとって、どういう庁舎であるべきかみたいな視点というのがもう一方で必要になってくるのかなということと考えますと、シンボルという言葉については、時代的なモードに流されてしまうのではという懸念のご発言もありましたけれども、やはりこの子どもたちにとっての大きなシンボル、心の故郷のようなイメージになるような、そういった視点があってもいいのかと考えます。

基本的には今回出たこの理念と指針をよりブラッシュアップしていくような形で進めるのがよいのではと私は考えております。

## 事務局

「あらかわ」のひらがな表記につきましては、親しみやすさを出すためにあえて漢字ではなくひらがなにしたということがございます。荒川区は当然、漢字で荒川区となっておりますので、漢字としても良いのですが、ひらがなの方がやわらかい表現になり、親しみやすいというところを考えて、あえてひらがなで表現をさせ

ていただいております。

## 委員

指針の中の環境配慮の部分で、公園と一体となった空間と現公園にある植物への配慮ということから、「緑とつながる環境面に先進した庁舎」という不思議な文章になっていて、これが設計者などのコンペの場などになってくると、屋上緑化につながりましたみたいな結論になる可能性があると思います。

「つながる」という言葉が引っかかかっていて、環境面、周辺環境と調和したとか、そういうふうにしたほうが、壁面緑化や屋上緑化だけに直結しないので、少し文言を変えた方が良くないかと思いました。

## 委員長

今の点については、前回委員会の議論では、この周辺にできる緑地帯、それらと動線でつながるといったことをイメージしてこの言葉を作っていると考えています。壁面緑化は、現時点で全く議論してなくて、そのイメージはここにはなく、壁面緑化だどつながるって言葉よりはもっと別の言葉が出てくるのかなとも思います。ここについては、周りの緑地との関係性について、前回議論があったというところを、事務局が反映してくれたのかなと思います。

あと、このあたりの議論はこの後の整備方針とも関連していて、基本指針は言葉として丸まっているので、それと整備方針をタイアップさせるようなことが必要であり、シンボルの話もそうですけど、シンボルという言葉は多義的で、ハードの意匠的なものもありますし、そうではない部分もあるので、整備方針と組み合わせて議論できればというふうに思います。

## 委員

施設維持・管理のところで意見があるんですけども、10ページの冒頭で、壊れにくくて長く使えるというような表現があるんですけど、物っていつか壊れるので、壊れてもすぐに直せるという、管理が楽だと、メンテナンスを前面に置いた作り方をするのがいいのではないかと思いました。

あと、1回目の議論だったと思うんですけど、スロープがあってこれってなんであるんだっけみたいな話があったと思うんですけど、そういうのが今後20年、30年、100年続いていくと、資料がすぐ出てこないであるとか、工事を知っている人がいなくなっちゃったとかで、設計意図が伝わりにくくなるということがあると思います。情報がない段階で見ても、設計意図が伝わるような作りをするのが重要ではないかなと思いました。

## 委員長

ありがとうございます。そういう意味では、ここでの議論の基準とか、それからこの先の議論ですけど、整備方針とその考え方みたいなものをちゃんと残しておくことが重要かと思いました。

## 委員

4点ほどあります。

1点目は、防災の話ですが、今回あえて水害が強調されているのは、これまで建築物で水害に対応しようとしたことがなかった。令和元年の台風の時には武蔵小杉のタワーマンションは完全停電してしまいました。地震に対してはきちんと対応できているから、水害にも対応していく必要があるという議論が前回委員会でなされたのかなと想像しました。

防災の観点では、荒川区は23区全体と比較しても、恵まれているような気がします。ここの空間はオープンスペースがあって、災害を乗り越えるために必要な消防、警察も周辺にあり、それからサンパール荒川もあるので拠点って言った時に庁舎だけが拠点ではなくて、周辺施設も合わせた大きな力が発揮できるような設計をしていく意味合いで、「拠点」だっていう理解をしておくといいかなと思います。

2点目がシンボルというキーワードが議論になっていましたけれども、江戸時代であれば、やっぱりうちの町にはお城が欲しいというのは当然だと思うんですけど、今の時代にシンボルという言葉で表される何が必要かっていうことを、もう少し掘り下げたほうがいいかなと感じます。少なくともお城はいらないう気があるのですが、ではシンボルって言った時に何が必要なのか。冒頭の説明で、ハード面だけでなくソフト面も含めてという説明もありましたけど、もう少し議論して共有した上で、シンボルという言葉を使うなら使うし、使う必要がなければ使わないということが必要かなと思いました。

3点目が可変性というキーワードについてです。今後DXが進むと働き方とかも激変すると思うんです。また、働く場所も空間も激変すると思うんです。ただ、その先行きが明確には見通せない。そういう意味合いだと思うんです。この未来の見通しをある程度共有した上で、設計者やプランナーに渡していくことが重要となるので、そのあたりをもう少し噛み砕いて委員会の中で共有できるといいかなと思いました。

4点目として、交流機能は庁舎建設を議論する時には必ず出てくるんですけど、身近な人たちが集まって交流するというと、別に区役所まで行かなくても、もっと近場にあった方がいいかなと思ったりします。なので、区役所に作るべき交流機能

ってどんなものなのか、そこを考えた方がいいかなと思います。

### 委員長

ありがとうございます。最後おっしゃられた点については、私もよく言っています、荒川区は公共施設の立地密度も非常に高いんですね。そうすると交流拠点自体は区内にたくさんあるので、委員がおっしゃられたように、また、先日も議論があったように、区役所と一体となっている交流拠点に区民の方、もしくは荒川区を訪れる方がどういう期待をされるかを考えていく必要があると思います。

先ほども議論がありましたが、区役所で何か表彰を受けるというのは、他の交流スペースで表彰を受けるのとは、子供たちにとっては違うイメージがある。そういう部分のご意見かと感じました。

それから可変性については、まさにDXの影響が非常に大きいと思っていて、DXになると個別単位っていいんでしょうか、ブースみたいなもので、個別に対応するようなニーズが当面はかなり増えるというふうに思います。

庁舎の中のオープンな場所で、いろんなことを相手と話していると聞こえてしまいますので、もっと小分けにしたブースみたいなものがある程度必要になる。大学でもすでにそういうものが出来てきていますが、そういったイメージが短期的にはあるかなと思います。

あと、世代の変化というのも大きくて、世代の変化によってこっちのほうが便利だと思われる形がどんどん増えてくるだろうと予測しています。

### 委員長

今、どちらかという指針の方に議論が集中していますが、理念の方についてのご意見はいかがでしょう。

先ほどの資料11ページですと右側にございますので、そちらも合わせてお願いできればと思います。

理念の方については、案の1から3は、どちらかというソフト寄り。それから案のaとbはどちらかというハード寄りの視点で案が作られています。ただし、現時点で見ると、ちょっと意味合いが重複している部分も原案ではあって、完全に分かれているわけではないですけれども、この案を一つにまとめるのか、ソフト的な機能と庁舎のハード的なものを分けた方がわかりやすいのか、そういった部分もご意見いただきたいと思います。

### 委員

今の話ですけども、やはり理念はたくさん作らない方がいいということで、私も

委員長のお話のように、ソフト面で一つ、ハード面で一つ、合わせて二つぐらいがいいんじゃないかと考えております。

その中で11ページの表は、考えていく上で非常に大事なポイントだと思っ  
ていて、よくまとめていただいていると思っ  
ています。

私がすごく大事だと思っているのは、先ほど他の委員からもお話がありましたよ  
うに、庁舎という利用者である区民の視点、来訪者の視点にどうしても集中して  
しまうんですけども、今回は、ここに執務環境という言葉が入ったということ、そ  
してそのことによって「区民が利用しやすい庁舎」が「誰もが利用しやすい庁舎」  
に変わったということ、これはとてもいいことだと思っ  
ています。利用者だけではなくて、当然、そこで働く人たちのことも考えるという、この視点はとてもいいこ  
とだと思っ  
てお  
りま  
して、私はこの「誰もが」というのを気に入ったので、この案  
でみると、案1が良いかと思っ  
てお  
りま  
す。とは言いながらも、最終的には荒川区  
に深く関わっている方に絞り込んでいただければと思っ  
ています。

#### 委員長

同じ案1の部分で補足しますと、これまでの委員会でも都電との関わりについて  
の意見が複数ありましたが、案1の「まちと人がつながり」というところには都電  
とは書いていませんけれども、周辺の土地とそれから都電など、そういったものを  
含まれているのかなと感じております。

#### 委員

理念を決めていくのは、本当に難しいと思います。一つは言葉を表すセンスも必  
要で、やはり長く行政の皆さんと仕事上でお付き合いしていますと、なかなかそ  
ういうセンスを表現できる方っていうのはあまりいない。ここにある案はよく表現さ  
れているなと思っ  
ながら、今二歩足らないのだろうと感じています。何が足ら  
ないのかを申し上げるには、私もそのセンスがありませんので、本当に難しいと思  
います。

今日おおよそのことは決めなければいけない場面だろうと思っ  
ます。

私たちからの意見だけではなく、委員長、副委員長の想いもいただきたいと思  
います。

#### 委員長

ありがとうございます。追加でご意見があれば先にお受けしてからお話し  
させていただきます。

## 委員

今日は第3回目ということで、前回についてはブレスト的に頭にある言葉をこの場に出すというような作業でよかったと思うのですが、第4回に向けてどんどん集約していかなきゃいけないと思っています。

やはり理念と指針がどう違うのかっていうのははっきりさせていくことが大事だと思っています。ここの差別化を図っていかないと、理念も指針も同じようなものになってしまうと思います。

資料の最初にも書いていますが、基本理念はあり方なんだろうと思います。できる限り短い文章でまとめることができれば、みんなの心にも響いていけるかなと思います。

また、それを具体化した方向性が基本指針かなと思うんです。そのさらに細かくした整備方針っていうのは、これから整備していく上で判断軸になるものが、整備方針になっていくだろうと考えています。

この理念、あり方については今出てきた言葉をまとめて、建物ではなくて、この庁舎の役割だとか存在意義、こういったものを示すべきです。それからまた区民や職員や来訪者、すべてを含む人っていうものが主語になっていくような、そんな表現がいいのかなと思っています。それから将来世代であるとか、災害対応も含めて時間軸の長さを意識するような言葉というのはどういうものがあるかなというふうに考えて、「人とまちをつなぎ、誰もが安心して利用でき、未来につながる荒川区庁舎」の一文でいいのではと思っています。当然、この文章には入っていない要素というのは短い文章ですからありますけれども、そこを指針ですとか、整備方針で補っていくっていうふうにしないと、あれも入れよう、これも入れようというふうな理念になっちゃうと、ぼんやりしてしまうのかなっていう思いがあります。

第4回に向けてそんな考え方も参考にさせていただければと思っています。

また、この案3にある「にぎわい」や「住民サービス」あたりは理念にしては具体的すぎるなと思うので、このあたりは方向性、指針に組み込んでいくと良いのではと思います。

先ほどちょっと似たような意見がありましたけれども、案Aにある「環境と調和した持続可能な庁舎」これについても指針の方に組み込んでいくと、指針の中の下の方に、「緑とつながる環境に先進した庁舎」という似通ったものがあるんで、統合していくような形でまとめていくといいのかなと思っています。

あり方はできるだけ短めに、人の心に染み入るようなもの、そして具体的な方向性を示して、今後の判断軸にしていけばいいのかなと思います。

今出されている話の中で、シンボルという話もありましたけれども、思えば現庁舎も公園の中にある庁舎ってあまり見たことないですし、この湾曲している形と

か、もう十分シンボリックなものでもあると思います。それを継承していくっていうこと自体がシンボルでもあり、何もこれから新しいものを作る必要もない、そういう考え方も一つであるのかなと思ひ発言させていただきました。

## 委員

誰もが利用しやすい庁舎、区民にとって利用しやすいというのは、職員にとっても働きやすいということと相似性があると思います。順番としても、やはり職員が働きやすいから、区民にとっても利用しやすくなるのかなって。そういう意味では、指針の順番も含めて検討が必要なのではないのかなと思います。

## 委員

先ほどからシンボルとかシンボリックという部分の話が出ていて、前回委員会で私がゴジラとか言ってしまったので反省もしていたんですが、別にスカイツリーを作ろうとか、そういう意味ではなくて、荒川区には芭蕉がいますし、それから繊維街もあります。そういう部分で歴史もあると思っています。

十年後にみんなが「荒川区役所があったね」っていう、そんな庁舎になったらいいなと考えているんです。私は前の庁舎を知っていて、とても暗かったイメージがあります。それがこれだけ明るく緑の中にあるということで、それが活かされるようなそういった意味でシンボリックな庁舎になるといいなと感じています。

## 副委員長

まとめのような意見を言わなければと思ったんですけども、まだ、なかなかまとまらないというのが正直なところです。

理念というものについてソフト面に寄ったものと、ハード面に寄ったものと、二つの方向でいったいいいのか。先ほどご意見がありましたように、一つにまとめるのかということについても様々な意見が出ているところでございますので、その形ではなく自分の考えを申し上げます。

荒川区役所はすごく綺麗な区役所で、古いということではなく、もう十分に独自性のある公園の中に立つ区役所というご意見がありましたけども、独自性のある荒川区でなければ、このような形にならなかつたらと思いますし、この区役所なりの魅力を重視するという意味では、私は機能性の面でのシンボリックというものが重要だと感じます。

機能性についても、この後の整備方針のところで議論されると思いますけれども、形状や外観だけではなくて、この場所でなければできないシンボリックな要素を持った機能を重視するというところに、議論を持っていけたらと思っております。

それが整備方針のところ、限られた時間の中で、進めなければいけないところでございますけれども、私としては、機能性というところを重視する意味で、整備方針のところも絡めながら、もう一度整理し直すということが必要なのかなと思っています。

## 委員長

副委員長のおっしゃる通りで、先ほどの議論も含めて、言葉だけだと背景の意味もありますので、整備方針と合わせて議論する必要があると思います。

整備方針の議論に入りたいと思うんですが、私なりに一文を考えてみました。一つは荒川の魅力という言葉を使って、荒川の魅力を高めるという言葉がいいかどうかは悩んでいたんですが、「荒川の魅力を高め、誰にも優しい、未来とつながる庁舎」、荒川の魅力のところ、議論のあった歴史や文化、それから街の特色、緑といったものを吸収し、誰にも優しいというところでサービスが提供される住民の方々と、それから職員の方々の、それから未来とつながるというところで可変性の部分とか、そういったものを含めるというようなところで考えました。交流は直接的には受けていないですけど、「誰にもやさしい」のところも含めて考えたかどうかと思います。

また、理念をつくるときに、指針となるべく同じ言葉を使わない方がいいと思っています。同じ言葉を入れてしまうと、その部分だけがすごく理念に強調されてしまうので、あえて少し別の言葉を使う。今のように荒川の魅力っていうのを最初に持ってくる場合は、指針では魅力という言葉は使わない方がいいんじゃないかなというふうに思います。

それでは、整備方針について事務局の説明をお願いします。

整備方針については、かなり具体的なことも資料の中にはあるんですが、現段階では整備方針の基本概念のような、どういう機能がほしいのかとか、先ほどの理念や、それから基本指針の背景として、我々が共通認識を持っておくべきようなところを中心に議論いただければと思います。

## (事務局説明)

資料2 第3回資料のうち

### 3 整備方針の検討

## 委員長

整備方針については、今回が初回ですので、まずはご自由に議論いただきたいと思っています。

先ほどの理念と指針の議論の中でも、機能の話がかなり出ていましたので、そういったものも思い浮かべながら、ご意見いただければと思います。

## 委員

窓口機能というところですが、荒川区は外国籍の方が12%もいらっしゃるということで、この間海外に行った時にすごく便利だと思ったのが、地下鉄に乗る時にももちろんその国の言葉で書いてあるんですけども、日本語だったり韓国語だったり英語だったりボタンがありまして、そこを押すと券売機が全部日本語に変わる、韓国語に変わるという機能がありました。初めて地下鉄に乗るものとしてはその国の言葉がそこまでわかりませんので、地下鉄ではないですが、初めて外国から荒川区に来る方の気持ちを考えた時に、そういった機能があればどれだけ心強くて、いろんなことが便利に進めるなと思いました。

そういった機能は人件費もかかりませんし、可能でしたらご検討いただければいいかなと思いました。

あと、マイナンバーカードの順次更新をやっていると思うんですが、マイナンバーカードがなんで便利かという、それを読み取ればいろんな情報が入っている、だけど更新はやっぱりそこまできなげない。現実的には、更新に行くことが大変なわけで、せっかくマイナンバーカードを作っているのにネット上でできないのかみたいな話も耳にしたことがあります。そう考えると、今の世代の方は更新に来られるかもしれないですが、若い人たちは結局行かなげないんだみたいな感覚になるのだと思います。

将来的なことを考えると、10年後はまだ窓口という形はもちろん必要だと思いますが、さらに100年先を考えた時にガラリと変わっていると思いますし、100年経たなくても10年後、20年後、場合によっては数年単位で変わるわけですから、ベースの変化というのを最初から考えていかなければならないし、中身はいくらでも柔軟に変えていける庁舎というものを最初の段階でクリエイトしていただければいいかなと思いました。

## 委員

事務局説明の品川区庁舎の基本構想の紹介で、導入機能の整備方針として共通機能を設けていると説明いただいたんですが、確かに29ページの基本指針を見ている、結構、整備方針と被るところというか、共通でまとめられそうなどころがあるなと思っていますので、今後の検討の際に共通機能という形で一個入れるというのはいいのではないかなと思いました。

## 委員

荒川区の災害、自然現象による災害っていうのは、首都直下地震への備えが一番重要だと思っています。もちろん大規模水害もありますが、恐らく5~10年すると密集市街地も整備されて、燃えない街になっていくということなどを含めて庁舎機能となっていくのではないかと、建物が壊れないというのは、危機管理できる機能が保全される、途切れないというのがすごく大事だと思います。

区民にとって利用しやすい庁舎や窓口などの様々な行政へのアクセスについて、デジタル化もあるでしょうけど、私は将来に渡って人対人というものは大事にしていく必要があるだろうと思います。それと合わせて「働きやすい職場」「機能的で効率的」というのは、区民にとってもそうなので、指針の順番としては、私は1と3っていうのは、ほぼ近似性があるって一体じゃないかなと思っています。

## 委員長

ありがとうございます。今のご意見について、指針1は、先ほどおっしゃったように、働く人の要素も含まれる面はあると思いますけども、委員の皆様から積極的に職員の方にとって魅力あるものを見せるべきという意見があり、そちらの方は指針3の働きやすきのところで強調している形になっています。そういう意味では、指針1と3をまず横に並べるという考え方もあると思います。内容的にも非常に近く両面から見ているという感じですね。

また、安全・安心のところは優先順位が非常に高いということもあって、それが指針2番目に入っている構成となっています。置く順番によっても、理解のしやすさが変わるかなと思っています。

## 委員

前回の委員会の中で、都立大の荒川キャンパスとの連携を深めたらどうかということを出言いたしました。女子栄養大学との連携で「あらかわ満点メニュー」というのもやっている。十数年前に当時の流行りで、大学と行政との連携ということ、あちこちで様々にやっていたんですが、継続的な活動になることが意外に少なく、あらかわ満点メニューは、その中でもかなり評価しているのではないかと思います。

資料の28ページで、「地域産業の活用」ということが書いてあるんですが、先ほど食堂があった方がいいよという話もありましたし、荒川の満点メニューもずっと継続してやっているという中で、区の今までに蓄積した力みたいなものも含めて、具体的にどんな地域産業を庁舎の中に生かしていこうというイメージがあるのか、教えていただきたいと思っています。

それから個人的にはゆいの森がすごく好きなんです。よく出来ているなど思っています。あれは児童施設と中央図書館、それから文学館この三つを複合しているんですが、最終的には融合するというようなところで、「結」という言葉を選んであのような形になっている。建物自体も将来変化への対応を意識されたロングスパンで作られている素晴らしい建物だと思っています。そのゆいの森との連携のようなところを、資料の中にも入っていると思うんですが、どの程度意識されているのかということが2つ目の質問です。

最後に、公園と一体化された庁舎というのが一つのシンボルとして今後も魅力の一つとして継続されていくのでという前提ですが、現状の荒川公園にある噴水の水源はどこから採っているのか教えていただければと思います。

## 事務局

地域産業の活用につきましては、現時点で具体的なイメージというのは、持ち合わせていないところではあります。例えば、鉄の街であれば鉄を多く使った庁舎を計画したりするという説明をさせていただきましたが、荒川区における産業ということで考えますと、多種多様な産業が存在していて、明確な特徴がないというのが、荒川区産業の特徴であると認識をしているところです。その中でも、日暮里繊維街、布の街というところで打ち出していますので、何か布を使うのであるとか、繊維を使うのであれば繊維街から買う、そういったところはあるのかなと考えています。

また、伝統工芸技術の方もいらっしゃいますし、高い技術を持った職人も多数いらっしゃいますので、そういった方の技術が新庁舎の機能等で使えるものがあれば、十分検討する必要はあると考えております。

2つ目の質問についてですが、基本的には周辺施設とつながっていくような庁舎というところを目指していきたいと考えております。ゆいの森もそうですけども、周辺と調和した形で、整備していければというふうに考えております。

3つ目の荒川公園における水源でございます。現在のものにつきましては、通常の上水道を使っておりまして、地下水等を使っているわけではございません。

## 委員

23 ページの長寿命で可変性のある庁舎というところで、事務局案が2つあって、「将来変化への対応」と「ライフサイクルコストの低減」とある。ライフサイクルコストとはなんだろうと思って次のページを見ると、インシヤルコストに対してライフサイクルコストの方がすごくかかりますよってという説明があつてやっと分かるのですが、最初はライフサイクルコストの低減って何だろうと思ったんです。

江戸川区にしても品川区にしても、こういう言葉を使っていないので、「ライフサイクルコスト」って一般的にピンと来やすいかなと思いました。

また、その長寿命化という部分について、建物の中で一番最初にダメになるのがいわゆる設備環境で、配線とか配管とか、そういう部分をどう更新していくかというのが、建物を建てて最初にやってくる問題だったりするので、更新をうまくできるというのが、建物を長続きさせる重要なポイントになっているかなというのを、実体験として持っていますので、その辺のところを少し具体的に入れられないかと思いました。

今、建築工事費の半分が設備環境というほどに、ものすごくお金がかかっているところです。昔だと設備環境っていうと建築費の4分の1とか5分の1ぐらいのイメージだったかもしれませんが、今は設備環境にかかる費用が大きく変わってきているのと、汚水とか水とかが一番建物を劣化させるというか、設備が劣化する部分なので、そこに配慮するということが重要だと思います。その意味でも「ライフサイクルコスト」という言葉で伝わるのかなと思いました。

## 事務局

委員よりご指摘のありました「ライフサイクルコスト」につきましては、13ページの品川区の導入機能の整備方針の中で、将来変化、経済性の指針の中で「ライフサイクルコストの低減」という形で入っているところです。

23ページの可変性という部分については、今の建築の一般的な事務所ビルのやり方として、スケルトンインフィル方式というものがあります。

いわゆるコンクリートに関しては、100年、さらに100年を超える長寿命化というところの技術レベルはもう達成されてきており、民間ビルについてもそのような基準で建てられてきています。

そうしますと委員がおっしゃられたとおり、設備については15年、20年、25年と更新が必要になりますので、コンクリートや鉄骨といった構造体のスケルトンと内装設備のインフィルを分離する設計をすることで、スケルトンは変わらないけれども、設備を更新するときに無駄なコストをかけないということが可能です。このあたりが、24ページのライフサイクルコストの内、ランニングコストの部分で、一般的に建設費の4倍とか6倍かかると言われている部分について軽減を図っていくというのが事務局としての案になってございます。

## 委員

資料の26ページのところにもありますが、公園をどう活用するかというところで、荒川公園と新庁舎を連動させて、荒川公園の中で交流の関係というのもうまく

配置をすることがいいのではないかと思います。

それから 18 ページのところになりますが、災害に強い構造・設備の部分に不思議なところが一つあります。本来、最も大事なものは災害対策本部の場所ではないと思います。どうしても行政は本部の場所を講じたいというふうになりがちですけど、そうではないと思っていました、やはり最も大事なものは、情報を収集する最新の設備と、それを発信するための最新の設備、これが最も大事だと思います。それを踏まえて即応できる体制を作っておかなければならないということがありますから、これはあえて申し上げさせていただきます。

16 ページの待合機能についてですが、区役所に相談だったり、手続きであったり訪れる方たちが待ち合いをするという時に、交流を目的としていない方も多くいらっしゃる。そういう方には 1 人 1 人で居られる待合スペースが絶対に必要だと思います。

最も大事なものは、区役所は、いろんな方と交流をしたり、集団や複数人でいらっしゃるということではなく、家庭でもしくは個人でいらっしゃるの方が圧倒的に多いという事です。その方たちが隣同士になっても、何もお話をしたくないよという方がいらっしゃるのあたり前のことで、そういうところをどう待合で工夫して設置ができるかということとはとても大事なことだと思います。例えば、区内のあるホテルを見ても 1 階にも 2 階にもそういう場所がなくなってきているんですね。様々な公共施設の中で、一人でここで座っていたい、ここで待っていたいという場所が少なくなっているのが現状かなと思いますから、一人でいたい、もしくはご夫婦やご家族、身内だけでいたいというようなところをどうやって設置ができるか、ぜひ検討をお願いしたいと思っています。

## 委員

27 ページの絵を見ながら説明したいのですが、今回敷地条件がかなりゆるいように見受けられます。そんな中で、公園の中のどこに作るかということに関する指針を持っておいたほうがいいと思いました。改めて 27 ページのこの絵をみると、今の建設場所がとてもいい場所であると感じます。荒川はこれまで非常に燃えやすい街で、火が出たらほとんど燃えてしまう、おそらく 30 年経ってもじわじわ燃える街なんです。だからこそ、ある程度燃えることも前提にして暮らしていかなければいけないんですが、今の現庁舎というのは、燃える市街地を遮蔽し、公園を逃げ場所にして、消防とか警察とか災害対応しなければいけない施設も、結果的に守られているというような位置にある。おそらくレイアウトを今後検討すると、何もなければ多分工事しやすい場所にレイアウトされてしまうと思うんです。そうすると結果、公園が炎の熱にさらされるような状況になる可能性もあるかもしれない。だから、

そういうことも踏まえつつ、レイアウトに対してどういう要件をつけるか考えていけたらと思います。

二点目は「荒川らしき」っていう話なんですけど、いろんな計画で「何とかららしき」って必ず出てくる。浅草の街づくりでは浅草らしき、上野の街づくりでは上野らしきって必ず出てくるのですが、分かったような気分になるけど、具体性のない言葉でもあると思います。「荒川らしき」についても、らしきを探して、庁舎の何に反映するのか、あるいは未来に向けて荒川らしきというものを作っていくのか、そのあたりをもう少し議論して、決めたほうがいいかなと思います。

#### 委員長

先ほど情報に関する話がありましたけれども、今は音声認識、それから自動翻訳の性能が抜本的に向上していますので、これは今現在でも使えると思います。

それから、例えば目の不自由な方には音声で案内をすとか、そういったことは十二分に可能になっていると思います。そういったものを設置したり、提供できるフレキシビリティがあれば問題ないということかもしれませんが、積極的に「DX」とかそういったことを機能に入れてもいいのかなというふうに感じました。

もう1つは、学校や図書館があるじゃないかっていうのはあるかもしれませんが、子供に関する機能が文字として一つもないので、荒川区では子ども議会も開催されるなど、子どもがすごく大事にされてきたということを考えると、子どもたちにとっての学びの場であるとか、子どもに向けての言葉や子供のための機能も一つはあってもいいのかなと感じました。

今日は整備方針を見ていただきましたので、バックにある機能を念頭に置きながら、次回は基本理念、基本指針、整備方針について意見の集約ができればというふうに考えております。

#### 4. 今後の日程について

#### 5. 閉会